

ハスモンヨトウの発生に注意しましょう（県中南部）

8月第3半旬、ハスモンヨトウ雄成虫のフェロモントラップによる誘殺数は、県内4地点ともに平年より多い結果でした（図）。特に小山市では、7月以降急速に増加しています。

また、8月中旬に県内15地点（30ほ場）の大豆ほ場で見取り調査を行った結果、ハスモンヨトウは、平年よりやや多い23.3%のほ場で確認されました（平年値の約1.6倍）。

向こう1カ月の降水量は少ない見込みで、ハスモンヨトウの増殖に好適な条件となっています。これからも引き続き、ハスモンヨトウの発生に注意してください。

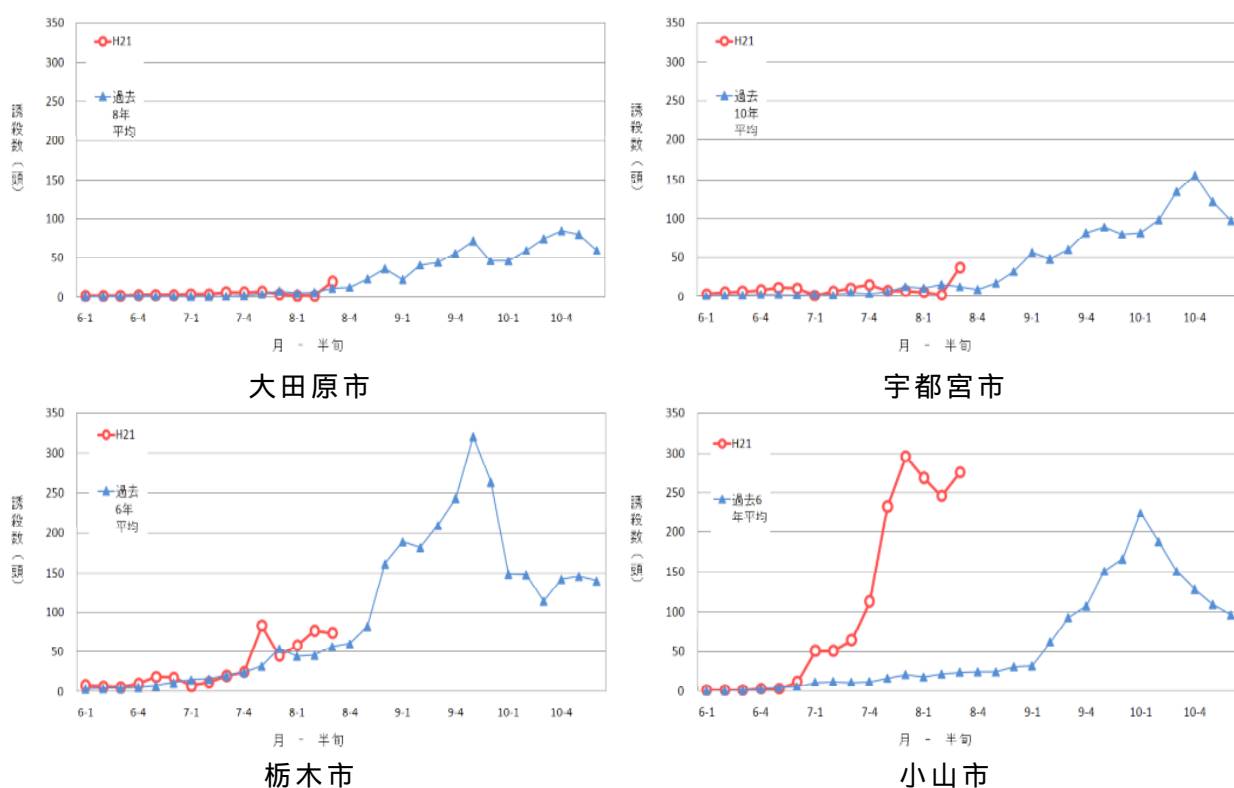


図 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺消長

防除対策

- ・ ほ場をよく観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫は寄生葉とともに摘み取り、土中に埋める。
- ・ 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を張って侵入を防ぐ。周囲にハスモンヨトウが多発したほ場がある場合、飛来が多くなるので必ず侵入防止対策をとる。
- ・ 雑草にも生息しているため、ほ場周辺の除草を行う。
- ・ 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するため、薬剤防除を行う場合には、若齢幼虫が集団でいるうちに散布する。

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012